

巻 頭 言

山形県高等学校教育研究会
工業部会長 阿 部 進
(鶴岡工業高等学校長)

本部会の運営につきましては、会員の先生方からご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。理事・代表者会をはじめ、関係部会、そして研究発表会と各事業を円滑に進めることができましたことに重ねて御礼申し上げます。

今年度から繊維・デザイン関係科部会の廃止に伴いまして6部会での教育研究会となりました。高教研の中でも会員数の多い研究会である工業部会として、所属する学科・関係部会は違っても、お互いに情報交換しながら、工業教育全体のさらなるレベルアップにつなげていきたいものと思っています。

さて、文部科学省では、「Society5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが代わる～」という今後の教育施策の方向性についての提言が出されています。言うまでもなく、情報社会と言われた Society4.0 から Society5.0 という新しい時代が到来してきています。つまり、IoT、ロボット、人工知能、ビッグデータ等の先進技術を活用することで、新たな価値を創出し、地域や年齢、性別、言語等による格差なく、多様なニーズ、潜在的なニーズにきめ細やかに対応したモノやサービスを提供できる新たな時代である Society5.0 を迎えようとしています。さらに「新時代の学びを支える先端技術のフル活用に向けて～柴山・学びの革進プラン～」も出され、教育の質を一層高めていくため、教師を支援するツールとしての先端技術をフル活用して、すべての生徒に基盤的な学力と他者と協働しつつ自らの考え抜く力を育み、新たな社会をけん引する人材の育成ということが述べられています。どちらの提言も、IoTはじめ、様々な最先端技術を活かし、言わば工業的なトピックスを活用して、まさしくこれからの100年をめざした国づくりの提言が示されているものです。新たな社会で求められる力は何か。社会をけん引していくためにはどのような人材が必要なのかということへの提言であります。

我々工業教育に携わる者は、日本や地域の産業を担い、そして世界でも最先端の技術を生み出して我が国の発展を担ってきた誇りがあります。つまり、このことは、我々工業教育に携わる者は、率先して社会の潮流を意識して取り組んでいく必要があるといくことでもあると思います。変化の激しい時代において、Society5.0も意識した教育はもちろんでありますが、各学校においては、これまでの教科指導や課題研究について、今求められている学びになっているのかと、日々の授業や実習で検証しながら、さらなる工業教育の発展を担って頂きたいものと思います。

今後とも、本部会が教員の資質向上はもとより、研究・調査と諸課題の解決に向けた取り組みによっ、より一層充実した研究会になるようお願いし、そして工業教育の活性化をとおして山形県の活力と創生につながることを期待します。